

特別支援学級（ひまわり3組）自立活動指導案

対象児：第6学年 2人
授業者：山ヶ城 真一

1 活動名 「自分説明書をつくろう」

2 活動設定の理由

【子供の実態】

本学級は2年生1人、3年生1人、5年生1人、6年生2人の計5人が在籍している。下の学年の子が困っているときは、上の学年の子が声を掛けたり、解決方法を一緒に考えたりするなどの優しい一面が見られる。また、トラブル等も少なく、みんなで仲良く過ごすことができる学級である。本学級の自立活動では、課題に応じて学級の中でいくつかのグループを編成して指導を行っている。本活動では、6年生のA児、B児の2人グループで指導を行う。

A児は、学習場面では、ほとんどの場面で集中して学習に取り組むことができる。分からないことや取り組むことが難しい課題に直面したときなど困った状況になると、慣れている教師や親しい友達には助けを求めたり、解決方法を尋ねたりすることができる。しかし、交流学級といった大きな集団の中では困った状況を解決するために、尋ねたり助けを求めたりすることが難しい様子が見られる。また、指示理解が難しい姿も見られる。指示理解の困難さは、個別知能検査の結果から語彙力の乏しさが背景にあるようである。この指示理解の困難さに伴い、学習活動や学校生活への見通しのもちにくさもや、「今やるべきことが何なのか」、「自分が何に困っているのか」といったことが分からない様子が見られる。

B児は、特別支援学級やごく親しい友達とは明るく打ち解けて過ごすことができ、年下の面倒をみたり、落ち込んでいる友達がいると優しく言葉を掛けたりする姿が見られる。係活動や委員会活動など繰り返し経験したことがある活動では、やるべきことが理解でき、自信をもって積極的に取り組むことができる。学習では、算数や理科といった苦手な教科や自分だけでは解決が難しい課題では、教師に質問して解決しようとすることができず、学習へ取り組むことをやめてしまう姿が見られる。また、教師の話や指示を最後まで集中して聞くことが難しく、指示された内容が分からなくなってしまい、うまく行動に移すことができないことがある。指示が理解できない、何をすればいいか分からないといった困った状況になっても自分から「誰に」対して、「どのように」尋ねてよいか分からず戸惑っている様子が見られる。

【活動の意義・価値】

苦手な状況や困っている状況下で教師や周囲の友達に尋ねて解決することの難しさがあるという共通の課題から、自己理解を深め、コミュニケーションの課題に取り組む「自分説明書をつくろう」の活動を設定した。この活動を通して、自分が苦手さや日常生活で感じている困難さだけでなく、自分のよさにも気付き、苦手な状況になったときに周囲の人に尋ねたり助けてもらったりしながら解決していくとする意欲を高められるようにしたい。

【ねらい】

本活動では、自分のよさを知って自己肯定感を高めることや、自分の苦手なことや学校生活で直面している困難な場面を振り返ること、その上でその解決方法を自分で考えたり解決方法を自分でできるような行動に移す方法を見出したりすることに焦点を当てたい。そのために、自己分析や解決方法といったことをまとめた「自分説明書」づくりを通じて、自ら周りへ働き掛けて解決していくことの価値に気付いたり、日常の学習や生活に自信をもって取り組んだりできるようにする。

【指導観】

担任だけでなく、交流学級担任といった複数の教師で実態把握を行い、活動の目標や日常生活により生かすことができるような具体的な指導の方向性を定める。自分のよさについて自分自身で考えるだけでなく、友達や先生にインタビューをして新たに発見することでさらに理解を深め、活動への意欲を喚起したい。また、苦手なことに対しても、マインドマップに書いたことや日常の様子などを基にその場面の具体例を挙げることで、子供たちの意識を焦点化できるようにしたい。また、自立活動で学んだ

ことを交流学級でも生かせるよう、交流学級担任と協力しながら本活動の学習を積み重ね、指導の効果を高めていけるようにしたい。

【展望】

本活動を通して、分からないことや苦手なことに対して、人に尋ねたり支援をもらったりすることについて、具体的な行動に移していけるようになることを考える。そうすることで、中学校という新しい環境でも、自分が困ったときには周りの人へ自分から発信して解決していくことができるようになることを考える。

3 子供の実態

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	コミュニケーション
A児	基本的な生活リズムが整わず、学校を休む日もある。	指示の理解が難しく、どのように行動したらよいか分からず困っている。	支援学級などの小集団では、全ての友達と交流する。交流学級では特定の友達と過ごすことができる。	自分の気持ちを相手に伝えることが苦手で、交流学級では伝えたいことが言えない。
B児	早寝早起きなどの基本的な生活リズムができておらず遅刻が多い。	指示を聞き漏らしてしまうことが多く、何をしたらよいか戸惑うことが多い。	支援学級では下の学年の子への面倒をよく見て、慕われている。交流学級では特定の友達と話すことはできる。	交流学級では、仲のよい友達と話をするが、分からないことなどを聞くことができない。また、相手の気持ちを考えずに発言してしまうこともある。

4 自立活動について（個別の指導計画の詳細については別紙参照）

(1) 年間目標

	個別の指導計画における自立活動の年間目標
A児	<ul style="list-style-type: none"> 活動に集中して、意欲的に学習に参加することができる。 1日の流れに見通しをもって過ごすことができる。 自分の良さや苦手なことを知り、自己理解を深める。 苦手な場面でも、周りの友達や担任に質問したり必要な支援を求めたりすることができる。
B児	<ul style="list-style-type: none"> 集中して話を聞き、意欲的に学習に参加することができる。 衣服を整えて、体を清潔に保つ。 自分の良さや苦手なことを知り、自己理解を深める。 分からないことがある時は、周りの友達や担任に自分から質問したり、必要な支援を求めたりすることができる。

(2) 年間計画

< A児 >

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	覚え方名人になろう (5月～7月)		→							
気持ち良い一日を過ごそう (4月～2月)		→								
				聞き方名人になろう (9月～12月)			→			
							自分説明書を作ろう (12月～2月)		→	
									中学校への準備をしよう (1月～3月)	

< B児 >

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	覚え方名人になろう (5月～7月)		→							
身なりを整えよう (4月～2月)		→								
				聞き方名人になろう (9月～12月)			→			
							自分説明書を作ろう (12月～2月)		→	
									中学校への準備をしよう (1月～3月)	

5 活動の目標

(1) 全体目標

- ア 自分のよさや苦手なこと、苦手な場面など自分について知ることができる。
- イ 自分が苦手な場面において、自分なりの解決方法を考えたり、どのような助けが必要かを考えたりして周りに働きかけることができる。

(2) 個人目標

A児	ア 自分のよさや苦手なこと、苦手な場面に気づくことができる。 イ 自分が苦手な場面では、どうすれば解決するか自分なりの方法を伝えたり、相手の考えを受け入れたりして「誰に」「いつ」「どのように」伝えたらよいか解決方法を考えることができる。
B児	ア 自分のよさや苦手なこと、苦手な場面に気づくことができる。 イ 自分が苦手な場面では、どうすれば解決するか自分なりの方法を適切な表現で伝えたり、相手の話を注意して聞いて一緒に考えたりして、「誰に」「いつ」「どのように」伝えたらよいか解決方法を考えることができる。

指導計画（総時数10時間）

一次	1	<p>「どんなことをするか知ろう」</p> <p>① 自分説明書を作ることを知る。 ② 教師の作った自分説明書を見て、活動への見通しをもつ。 ③ これからの学習の計画を立てる。（活動計画を立てる。）</p>
二次	2	<p>「自分のよさやできることを見つけよう」</p> <p>① マインドマップに自由に書き込む。（多角的に自分を知る） ② 自分の長所や好きなこと、得意なことを知る。 ※日常の生活場面の具体例を提示する。言語化しやすいようにヒントカード提示する。 ③ 自分説明書に書き込む。 ④ 本時を振り返る。</p>
	3	<p>「自分のよさやできることを見つけよう」</p> <p>① 話の聞き方（質問の仕方）を知る。 ② 自分のよさを友達や先生達にインタビューしたり、友達の良さを伝えたりする。 ※友達と長所も伝え合い、自分の長所も知る。 ③ 自分説明書に書き込む。 ④ 本時を振り返る。</p>
三次	4	<p>「自分のよさを伝えよう」</p> <p>① これまでに集めた自分の良さについて紹介をするために、伝わる話し方について知る。 ② 自分の良さをどのように伝えたらよいかを考えながら、タブレット端末などに録画して、よりよい伝え方（話し方）について話し合う。 ③ 自分の良さを紹介する動画を撮る。 ④ 本時を振り返る。</p>
	5	<p>「自分の苦手なことを知ろう」</p> <p>① マインドマップに書かれた自分の苦手なことや苦手な場面を話し合う。 ② 自分がどんなことが苦手な場面かを知り、「なぜ苦手なのか」「これまではどうしていたか」理由を合わせて出し合う。 ③ 自分説明書に書き込む。 ④ 本時を振り返る。</p>
	6 7(本時)	<p>「こんな時、どうしたらいいのかな」</p> <p>① 前時の活動を振り返り、自分にも他の人にも苦手なことや苦手な場面があることをふりかえる。 ② 苦手なことや苦手な場面において、どのような解決方法があるかを4コマ漫画の状況絵を使って考える。 ③ 話の聞き方や伝え方を確認して、自分の考えを発表したり先生や友達の考えを聞いたりする。 ④ 自分がやってみようと思う解決方法を自分説明書に書き込む。 ⑤ 本時を振り返る。</p>
8 9	<p>「どう伝えたらいいのかな」</p> <p>① 苦手な場面では、どのような助けがあったら解決できるかを話し合う。 ② 「いつ」「誰に」「どのように」伝えたらよいか。4コマ漫画の状況絵を使って考える。 ③ 話の聞き方、伝え方を使って自分の考えを発表したり友達の考えを聞いたりする。 ④ 自分ができそうな伝え方を自分説明書に書き込む。 ⑤ 本時を振り返る。</p>	
四次	10	<p>「自分説明書を完成させよう」</p> <p>① これまでの活動を振り返り、自分の長所や短所、苦手な場面のできることなどを振り返る。 ② 自分説明書のどのように使うかを話し合う。 ※交担任や交流学級の友達に紹介する。中学校でも引き継いでいく。</p>

8 本時（7 / 10 時間）

(1) 目標

個人目標	A児	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをわかりやすい言葉で書いたり話したりすることができる。 友達の考えを聞き、よりよい伝え方を考えることができる。
	B児	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを望ましい伝え方を考えて書いたり話したりすることができる。 友達の考えを聞き、よりよい伝え方を考えることができる。

(2) 評価規準

- 自分の苦手な場面を理解し、自分なりに解決する方法を考えている。
- 自分の考えた方法を伝え、よりよい解決方法を話し合っている。

(3) 想定する振り返り

- 「誰に」「どのように」言えばよいか分かったから、やってみようと思う。
- 〇〇さんの解決方法がいいと思った。
- 自分の考えた方法を、今度やってみたい。

(4) 本時で引き出したい子供の姿

- 自分の苦手なことを理解して、解決しようとする意欲をもち、解決方法を考えることができる。
- 相手の考えのよいところに気付くことができる。

(5) 本時の展開

 子供の意識や反応

○ 指導の手立て

	主な学習活動	子供の実態に応じた具体的な支援		
		A児	B児	
問いをもつ・見通す	8分	1 始めのあいさつをする。	○ 二人の心と体が揃ったら礼をするよう言葉かけをする。	
		2 認知トレーニング（聞くトレーニング）をする。	○ 聞くポイントを伝えてから始めるようにする。 ○ 意欲的に活動ができるように、内容はくじ引きで決定し、楽しい雰囲気を作る。	
		3 活動計画を確認し、前時の活動を振り返る。	○ 活動計画を活用しながらこれまでの活動を振り返り、何ができるようになるためにこの学習をしているのかを確認し、目的をもって活動に取り組むことができるようにする。（ア）	
		4 本時の活動の流れを確認する。	○ 活動計画を確認することで、本時の活動はどんなことをするか見通しがもてるようにする。（イ） ○ 学習の流れを掲示しておくことで、学習の進度を視覚的に確認し、全体の見通しが持てるようにする。（イ）	

解決にむけて取り組む	30分	<p>5 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 困ったときに自分で解決できるようになるために自分に合った方法を見つけよう。 </div> <p>6 本時の活動をする。</p> <p>(1) 4コマ漫画を使って、どのような状況か確認する。</p> <p>① 先生が明日の遠足について大切なことを話したけど、途中から分からなくなりました。どうしたらいいとおもいますか。</p> <p>② あと5分で6の1(交流学級)で授業が始まります。5分間のうちに何をしておいたらいいと思いますか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生の話の途中で分からなくなったんだ。 ・ 私も同じようなことがよくある。 </div> <p>(2) 話の聞き方や伝え方を確認して、自分の考えを発表したり、先生や友達の考えを聞いたりする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 僕は、こんなことを考えた。 ・ 自分とは違う意見を聞くことができてよかった。 </div> <p>(3) 自分ができそうな伝え方を自分説明書に書き込む。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達が言った方法は気に入ったから書こう。 ・ 自分が最初から考えていた方法も使えそうだ。 </div>	<p>○ できるだけ子供たちでめあてをたてられるように、前時の振り返りを確認する。(ア)</p> <p>○ 4コマ漫画の3コマ目の台詞を空欄にしておいて、どのような伝え方が適切なのかを考える活動に見通しをもてるようにする。(イ)</p> <p>○ 交流学級や支援学級で実際にありそうな出来事などを基に4コマ漫画を作ることで、どのような状況か理解できるようにする。</p> <p>○ 子供たちが自分のこととして捉えられるように、できるだけ身近な課題を設定する。(ウ)</p> <p>○ これまでの行動と比較し、解決して活動を続けたり気持ちよく過ごしたりするにはどうしたらよいか考えさせる。(ウ)</p> <p>※ 自分の苦手な場面を理解し、自分なりに解決する方法を考えている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ 自分の考えがもちにくいときは担任と一緒に考えることを伝え、安心して活動できるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ 自分の考えが思い浮かんだときに、すぐにワークシートに書くことで、考えを整理することができるようにする。</p> </div> <p>※ 自分の考えた方法を伝え、よりよい解決方法を話し合っている。</p> <p>○ 自分説明書に、解決方法を書き込むことで、今後も同じような場面で使ってみようという意欲が高められるようにする。(オ)</p>
	振り返る	7分	<p>7 活動を振り返り、頑張ったことをワークシートに書き発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と話をして、新しい考え方を知ることができた。 ・ 自分が考えていた方法も使えそうだったので、うれしかった。 </div> <p>8 次時の活動について知る。</p>

